

外来化学療法中の肺癌患者の体重減少に影響を及ぼす因子の検討

かわ さき ゆう じ¹⁾ おか さき りょう た²⁾ うえ だ やす ひと²⁾
 河 崎 雄 司¹⁾ 岡 崎 亮 太²⁾ 上 田 康 仁²⁾
 はら だ とも や¹⁾ とう げ ひろ かず¹⁾ とく やす ひろ かず¹⁾
 原 田 智 也¹⁾ 唐 下 泰 一¹⁾ 徳 安 宏 和¹⁾
 まえ た りょう³⁾ いそ わ のり たか³⁾ しょう じ とし こ⁴⁾
 前 田 亮³⁾ 磯 和 理 貴³⁾ 昌 子 敏 子⁴⁾
 た なか み さ こ⁴⁾
 田 中 美紗子⁴⁾

キーワード：肺癌，体重減少，食欲不振，エネルギー摂取量，化学療法

要 旨

外来化学療法中の肺癌患者を体重減少なし群と体重減少あり群に分け、Performance Status (PS)，病期，化学療法への反応性，食欲の有無，エネルギー摂取量，タンパク質摂取量，CRP 値，および予後を比較した。まず，体重減少あり群の予後は不良であった。体重減少あり群では食欲のない患者が多く，エネルギー摂取量やタンパク質摂取量も有意に少なかった。さらに，体重減少あり群ではPD (progressive disease : 進行) の患者が多く，有効な化学療法を施行することが体重の維持には重要と思われた。

はじめに

がん患者での体重減少は強力な予後因子であり¹⁾，体重減少への介入は重要である。介入のためには，患者の体重減少とそれに影響を及ぼす因子との関係を知っておくことが必要である。そこで，外来化学療法中の肺癌患者での体重減少とPerformance Status (PS)，病期，化学療法への反応性，食欲の程度，エネルギー摂取量，タン

パク質摂取量，炎症マーカーとしてのCRP 値，そして予後との関係について体重減少への介入の観点から検討する。

対象と方法

対象は当院外来で化学療法中であり，かつ，化学療法への反応性が評価された肺癌患者 n = 23 名であった (表1)。まず，患者に2日連続の numerical rating scale (図1) を用いた食欲の程度と食事の種類，量について自己記載のアンケートを依頼した。記載1週間以内にアンケートを回収し，栄養管理士により食欲の程度，食事の種類，量を聞き取り調査し，2日間の食欲とエネル

Yuji KAWASAKI et al.

- 1) 松江赤十字病院呼吸器科
 2) 鳥取大学医学部分子制御内科 (元松江赤十字病院呼吸器科)
 3) 松江赤十字病院呼吸器外科 4) 同 栄養課
 連絡先：〒690-8506 松江市母衣町200番地